



前川 雅志
議員
(政風クラブ)

問 昨年、帯広市を中心とする定住自立圏構想や北海道・コンプレックス国際戦略総合特別区域帯広・十勝連絡会(以下、HFCとかち連絡会)等をスタートし、消防の広域化の協議が進んでいる。以下伺う。

- ①定住自立圏構想の取り組みの成果と今後の進み方について。
- ②HFCとかち連絡会での役割と取り組みについて。
- ③消防の広域化は、現在どのような進んでいるのか、どう進むべきか。

町長 ①各町村にとってメリットがあり、すぐに連携の可能性のあるものを中心に、「オール十勝」で定住自立圏をスタートさせる考えに基づき取り組みが定められ、今後も新たな連携に取り組みたい。②帯広市と連携を図り、本町の農業者や事業者にとって有益になるよう、さらなる要望事項の洗い出

問 HFCとかち連絡会の取り組みは品質の高い農畜産物を安定的に供給するための取り組みを行う

しや対象となる事業者には企業開発促進補助金の活用など、側面的な支援策を講じたい。

③消防広域化の時期を平成28年4月とすることを確認し、協議を行っている段階である。今後を見据えた時に、消防の広域化は避けて通ることのできない課題である。

問 国と地方の協議の場に対する対応は

答 地域の実態や意見を国の政策立案に反映できるように働きかける

問 国と地方の協議の場が公布され、地方自治に関わるものは、協議結果によっては、国がこれまで通り勝手に決めることが出来なくなった。以下伺う。

①十勝町村会の国と地方の協議の場に対する今後の対応と税と社会保障の一体改革に対する姿勢。
②地方公務員制度改革法案に対する協議について。

町長 ①地域の実態や意見を国の政策立案等に反映できるように、「協議の場」で取り上げていただくよう、十勝町村会構成他町村とも協議していきたい。

社会保障制度の強化と安定的な持続は、避けて通ることのできない課題であると認識しており、国民が納得できるような慎重かつ十分な審議を期待している。

②人事院勧告に準じて給与改定を行っている現行制度が機能している現在、町が住民の生命及び財産を守る重要な役割を担っており、行政サービスの継続的な維持・確保と住民の行政に対する信頼の観点から、慎重に検討すべきであると考えている。

再質問 ①定住自立圏のプロモーションをフルに活用し、三大首都圏へ積極的に売り込む努力が必要では。
②災害時の自衛隊・警察・消防・医療の連携は。

答 ①さまざまな定住施策を講じる中で、決して十勝で足を引っ張り合わないよう動向を見きわめながら、今後の対応に当たりたい。
②これからも町職員のみならず、多くの方の協力をいただく中で万全な体制をとっていきたい。



定住自立圏形成協定に基づく移住インフォメーションコーナー：とかち帯広空港